

Triosorb resine uptake から TBC がまた (1), (2) 式より PBI 値の期待値が算出されえた。かくして、甲状腺<sup>131</sup>I 摂取率と Triosorb resin uptake を測定すれば、種々の優れた甲状腺機能の指標の算出が可能となった。

## 68. 産婦人科領域における Triosorb Test の応用

岩井正二, 福田 透  
○清水 働, 古田孝文  
(信州大学・産婦人科)

甲状腺機能検査法には現在まで多数の方法があるが、最近さらに<sup>131</sup>I 標識 triiodothyronine resin sponge による検査法が発表され各方面より注目されつつある。本法はとくに放射性ヨウ素を被検者に直接投与しないで実施できる点に大きな利点を有し、妊婦などが対象となりえるのが領域では真に好都合な検査法であるが、われわれも信大産婦人科に入院あるいは来院せる各種患者、184名(妊婦93例、切迫流早産例20例、不妊症20例等々)につき本法を試行したので、現在までの成績につき報告する。

すなわち妊婦では一般に妊娠3カ月後では対照に比し低値をとるものが多いが妊娠月数とはとくに関連性はなく、中毒症例では正常例に比し低値を示す例の多いことを認めた。切迫流早産例における本検査の応用価値に関して今後さらに慎重なる検討を要するものと考えられた他、不妊症例ではとくに対照と著差が認められなかったことなども興味深いことと思われた。

今日までのわれわれの Triosorb に関する成績はほぼ従来の本検査成績と同様の成績であることを認めた。しかしながらその成績判定にはきわめて慎重なる態度と、今後の産婦人科学的検討とが必要と考えられた。これらの面をよく理解して本法を実施するならば、従来の赤血球法に比し一段と確実、かつ検査方法も簡便であり、今後わが領域においてもきわめて応用価値ある検査法の1つと考えられ、今後さらに各種検査法との関連性などにつき検討を行ないたい。

\*

## 69. <sup>131</sup>I-triiodothyronine resin sponge uptake による 甲状腺疾患の診断 (第2報)

木下文雄, 荒井寿朗, 吉浜英世  
(都立大久保病院)

<sup>131</sup>I-T<sub>3</sub> resin sponge uptake による甲状腺疾患の診断を Triosorb diagnostic kit を用い、500検体以上について行ない次のごとき成績をえた。

1) 検査成績は正常者男28例, 26.3~41.7% (32.3%) 女88例, 21.1~44.7% (30.6%), 甲状腺機能亢進症86例, 37.8~68.5% (54.1%), 甲状腺機能低下症12例, 17.0~25.1% (21.9%), び慢性甲状腺腫37例, 22.3~37.4% (28.9%), 結節性甲状腺腫42例, 22.1~39.7% (31.2%), 悪性甲状腺腫3例, 27.8~33.7% (30.8%), 亜急性甲状腺炎2例, 23.6~30.8% (27.2%), 慢性甲状腺炎16例, 20.9~41.1% (27.6%), 甲状腺腫2例, 28.6~30.7% (29.6%) であった。

2) <sup>131</sup>I-T<sub>3</sub> resin sponge uptake の正常値を25~40%とすると、正常者106例の中25~40%の範囲のもの93例(症例の88%), 25%以下10例(9%), 40%以上3例(3%), 甲状腺機能亢進症86例では40%以上84例(98%), 他の2例はそれぞれ37.8%, 38.0%, 甲状腺機能低下症12例では25%以下11例(92%)で、他の1例は25.1%, び慢性甲状腺腫37例では25~40%, 26例(70%), 25%以下10例(27%), 40%以上1例(3%), 結節性甲状腺腫42例では25~40% 39例(93%), 25%以下2例(5%), 40%以上1例(2%), 慢性甲状腺炎16例では25~40%10例(63%), 25%以下5例(31%), 40%以上1例(6%) であった。

3) <sup>131</sup>I甲状腺摂取率および基礎代謝率との比較をしたが、<sup>131</sup>I-T<sub>3</sub> resin sponge uptake は両検査に比し、亢進症、正常者、低下症において重なり合いが少なく、幾つかの点において両検査に優っていた。

4) <sup>131</sup>Iにて治療し、治癒した甲状腺機能亢進症における本成績は、88例中75例(85%)が25~40%で、10%以下10例(12%), 40%以上は3例に過ぎなかったのに対し、<sup>131</sup>I 甲状腺摂取率は治癒後なお40%以上が74例中31例(42%)もあり、B.M.R. は88例中16例(18%)が15%以上であった。

5) 血清を保存するのに凍結保存と4°C保存とで2週間後に多数例について<sup>131</sup>I-T<sub>3</sub> resin sponge uptake を比較したが、有意の差を認めなかった。

6) なおその他興味ある症数例について、<sup>131</sup>I-T<sub>3</sub> resin sponge uptake を検討した。